

# 森の温泉～駒の湯温泉通信（震災後～2014年）

源泉の近くに自分たちで入れる桶を置いていました。



**源泉が復活していたのを発見**  
「温泉に入りたい」から温泉復活への道が始まりました。

そして、入りたい気持ちは、入ってもらいたいへ…  
地図に、記憶に残る温泉を復活させたい…  
そんな思いで…

2012年、地区の人たちと、くりこま高原温泉郷協議会提供の桶と、工事の人たちの助けを借りて足湯が始まりました。



地区の人の協力で、デッキの上に足湯桶を乗せました。



屋根は、後からくりこま荘さんにいただきました。

最初はテントで受付をしていました。



**2013年11月に自宅を再建し、山に帰ってきました。**

雪の時期は地域の除雪隊にお世話になりながら、自分でも小型除雪機を使って、山で暮らしています。

2014年は、手伝ってもらいながら、受付小屋を作りました。この年は雪の中をスノーシューを履いて雪下ろしに7回行きました。

冬の生活に 欠かせない薪は、折れた木などを集め、薪割します。また、資金作りに手芸品を、お米や農作物などの差し入れをいただきます。冬は雪が多い所なので、様々な方にいろいろな形で手伝ってもらいながら、穏やかに暮らしています。

2014年、足湯の隣に受付兼休み小屋を一部手伝ってもらって、自分で作りました。



玄関前の雪の様子



自宅裏の雪の様子



薪割り作業



雪が多い年は屋根まで雪があり、安全に上ることができます



毎日、小型除雪機が活躍します。